

随筆 いま思うこと

高田宮憲仁親王

(昭53法)

沼津游泳存続に応援を

最大の思い出、

遠泳と助手奉公

確固とした存在感

「桜友クラブ」の設立、ならびに季刊紙「桜友クラブ」創刊をお慶び申し上げます。

卒業生でありながら、桜友会の催しにもほとんど参加したことはない私が、この創刊号に筆をとるのはいささか気が引けることではありますが、昨年から長女が初等科にお世話なっていることでもあり、せめてもの罪滅ぼしかと思えます。

元来、学習院と皇室は切っても切れない縁であり、家族、親戚一同が卒業生ですから、学習院はいわば故郷であり、私自身の根本でもあります。それは空気のように全く自然な存在であるがゆえに、常日ごろ考えるものではなく、むしろ、遠くにおいて思うもの、という感じなのです。

学校には同級生、運動部の仲間など、いくつもの友人たちや先輩後輩のグループが存在するわけですが、他の学校に比べてわが学習院は、それらの同窓会にその他の会合が比較的少ないように思います。

しかし、これは決してお互いの結び付きが薄いということではなく、学習院の雰囲気がいまにも個人にとっても自然であり、それぞれのなかに「学習院」が確固として存在しているがために、頻繁に出会ってそれを「確認」しあう必要性がないからだと思っております。

私自身、定期的に同級生や運動部仲間と集まるよりは、どこかでの偶然的な出会いを喜び、楽しむ気持ちの方がずっと強いのです。ですから自分から電話をかけて「おい、久しぶりに飲みに行こう」ということはほとんどしません。そのかわり、飲み誘われて拒むこともしません。そして友と出会えば一瞬のうちに学生時代に戻れることを嬉しく思います。

十年、二十年のプランクがあったとしても、それをまったく感じさせず、まるで昨日まで一緒に過ごしていたかのような付き合いができるのは素敵なことだと思います。学習院生はそれが他校より強いではないかと思うのは、あまりにひいき目に過ぎでしょうか。もっとも、気持ちが生時代に戻るのはいいのですが、飲み方まで学生時代に戻ってしまつて、したたかに酔ってしまうことが時にあるのが、唯一の弊害であります。

奇跡の完泳

私にとつて学習院最大の特徴であり、最も思い出に残ることは、やはり沼津の游泳です。私の時代には初等科五、六年、中等科一年、高等科一年と四回の游泳がありました。あの古ぼけた木造の寮、自習用の木机、蚊帳、並んでたなびく赤フンに大書きされた名前、時間を知らせる鐘の音、食堂の誘蛾灯に飛び込んでジジッと音をたてて焼けるかわいそうな虫たち、松並木、バレーボールコート、牛臥山……。



初等科時代は運動が苦手なうえに親もとから離れたこともなかったもので、五年生の時の初めての沼津は憂鬱そのものでした。父母参観日にはずっと母のひざにすがっていたのを覚えています。六年生の時はなぜか一・五キロの遠泳を泳ぐ羽目になり、前日の夕方、それが申し渡された時には深く落ち込みました。

まったく自信がなく、食事も満足にのどを通りませんでした。しかし奇跡は起こり、私は完泳できたのです。浜に上がってもらった氷砂糖の味は忘れられません。わが家の五人兄弟のうちで初等科で遠泳をしたのは私だけであり、兄弟姉妹で運動能力が最も劣っていると思っていた私にとっては、まさに信じられないことでした。

ノルマ・ビール50本

中等科で二キロ、高等科で四キロの遠泳を泳ぎ、二級卒をいただいて助手の資格を得、大学卒業までに何回か助手としてご奉公いたしました。助手になると日給をいただけるのですが、毎日、寮の裏手の赤ちょうちんにくり出して日給の倍は飲んでしまうので、助手というのは結局自腹を切ったボランティアであることがわかりました。

この赤ちょうちんでは不思議なできごとがあり、必ずビール大瓶五十本を空にして帰るのが決まり。五人で行っても五十本、十人で行っても五十本。床に五本ずつ十列きれいに並べて帰るのが日課でした。先生方も助手連中が夜な夜な出かけて飲んでいることは先刻承知でしたが、よほどの騒音でも出さない限りは大目に見て下さいました。

大学の時にはスキー部の一般班部員でしたので、今でも後輩が「一般合宿で教えていただきました」とか、「沼津ではお世話になりました」と言ってくれるのとても嬉しいことです。一般合宿で私の班にいた子供たちが大学に入ってきて、スキー部に入学してくれることはさらに嬉しいことでした。こういう言葉を聞くと、少しは学習院に恩返しできたかなと思えるのです。

助手会の悩み

沼津の助手経験者で、「助手会」というのを構成していますが、この助手会が目下、頭を悩ませているのが高等科の游泳のことです。現在、初等科は六年生のみ希望者、中等科は全員強制ではなくなりましたが各学年の希望者、ということでご存続していますが、高等科は平成二年を最後に中止されています。

これはスキー合宿もあるし、海の汚染がひどいなどの理由で、このような措置になったと聞いていますが、高等科がなくなると助手の資格である二級卒以上を取得する生徒の数がほとんどいなくなってしまうし、なにより学習院生としてかけがえのない沼津游泳経験者が初・中等科出身に限られてしまいます。

游泳場も防波堤がきたりして、もはや昔のままではありませんし、事故があれば引率の先生方の責任にもなることから、先生方のご苦勞も並大抵のことではないと思います。わが校のモットーである「質実剛健」そのままの伝統ある沼津の游泳が今後存続してくれることを心より期待しています。そのためには桜友会の皆様の力強い応援をお願いします。

「揮も満足に締められないのは学習院生ではない」というのが、私の固い信念なのです。



高円宮憲仁親王記念碑

平成14(2002)年11月21日、スカツシュの最中に47歳の若さで亡くなりました。
正門から入り記念会館の手前に建立されています。

へ桜友クラブ 創刊1号より転載 平成5年(1993年)3月1日◇